

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道362号 <small>おおほら</small> 大原～ <small>やつ</small> 谷津拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 静岡市	
起終点 自：静岡県静岡市葵区大原 至：静岡県静岡市葵区谷津	延長 4.3 km		
事業概要 一般国道362号は、静岡市中心部と静岡市北西部の藁科川沿い及び川根地区を結び、地域の産業や生活に欠くことのできない重要な道路であり、未改良区間の整備を行うことにより、安全で円滑な交通の確保を図るものである。大原～谷津拡幅は、「静岡市のみちづくり」における整備プログラムのもと、未改良区間の整備を行っている。			
H1年度事業化		H1年度用地着手	
都市計画決定 なし		H2年度工事着手	
全体事業費	90億円	事業進捗率	89%
計画交通量	6,100台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (事業費/維持管理費)	総便益 (走行時間短縮便益/走行経費減少便益/交通事故減少便益)
	(残事業)	(事業費/維持管理費)	(事業費/維持管理費)
交通量変動：B/C=7.5 (交通量 +10%) B/C=4.8 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=4.9 (事業費 +10%) B/C=5.9 (事業費 -10%)		基準年：平成20年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施			
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・円滑なモビリティの確保（現道等に当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 他4項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 「静岡市・川根本間国道バイパス建設促進期成同盟会」、「静岡市中藁科地域振興協議会」、「静岡市中藁科地区連合町内会」より早期完成の要望（H20.10.15）を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 現在、葵区大原付近において、狭幅員による乗用車どうしのすれ違いが困難な区間が約2km存在するため、地域において通勤・通学等の支障となる課題となっている。また、新東名仮称静岡S.A.においてスマートインターの検討を行っており、新東名へのアクセスルートとして期待される。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成12年までに2.7kmを部分供用しており、引き続き残る1.6kmのバイパス部を進めている。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後、残区間である大原トンネル（L=434m）を含むバイパス部の供用に向けて、トンネル工及び道路工等事業の推進を図っていく。			
施設の構造や工法の変更等 構造物築造にあたり、二次製品や再生材料の採用を積極的に活用することにより、約0.2億円のコスト縮減。（H19年度実績）			
対応方針		事業継続	
対応方針決定の理由 本路線は静岡市中心部と静岡市北西部の藁科川沿い及び川根地区を結ぶ緊急輸送路であり、地域の産業や生活に欠くことのできない道路であることから、事業効果は高く、事業を継続し早期完成を図る。			
事業概要図			
<p style="text-align: center;">大原～谷津拡幅 L=4.3km 供用済 (2/2) L=2.7km</p> <p style="text-align: center;">大原第一トンネル 大原第二トンネル (大原丸鼻トンネル)</p> <p style="text-align: center;">(記) 静岡市大原 (終) 静岡市谷津</p> <p style="text-align: center;">(バス路線：静岡鉄道 藁科線・南藁科線) (一) 改良箇所</p>			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。